

2020年度以降に入学を希望される皆様及び保護者の皆様
(千葉大学グローバル人材育成戦略の推進と授業料改定に関する御理解のお願い)

国際化が急速に進展している世界において、日本でも学びや労働の場が国内にとどまらないグローバル人材の必要性がますます高まっています。千葉大学では、「世界最高水準の教育研究を推進する総合大学」として、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、国際社会の様々な分野において真のリーダーとなるグローバル人材の育成を目指してきています。そのために主体的に学べる学修環境を整備するとともに、多様な文化・価値観を理解する視野や国際舞台で堂々と自らの意見を述べ競争力を発揮するといった能力を涵養するために海外留学支援体制を構築してきました。

特に、2010年度から始まった第二期中期目標期間からは、国際理解と日本理解を涵養することにより俯瞰的、多角的な視野を身に付けた世界へ発信できるグローバル人材の育成を加速するために、海外協定校や海外拠点の増強、多様な海外留学プログラムの実施、奨学金を含めた留学支援体制の強化を積極的に行い、文部科学省「グローバル人材育成推進事業」や「スーパーグローバル大学創成支援事業」ばかりでなく、毎年のように「大学の世界展開力強化事業」等のプログラムに選定されてきました。

さらに、2015年度には『千葉大学ビジョン(2015-2021)「国際社会で活躍できる次世代型人材の育成」』を策定し、国際理解と日本理解を涵養する科目群である「国際日本学」の全学必修化などの国際化に向けた教育プログラム改革を実施しました。

また、2016年度からの第三期中期目標期間においては、グローバル人材育成のパイロット学部として設置した国際教養学部において「海外留学」の必修化や、全学の学部生に対する英語外部検定試験の必修化、海外留学の受け皿として主要な海外協定校に本学学生のための教育スペース(千葉大キャンパス)を確保するなどの取組を着実に推進してきました。その結果、海外留学する学生は年々増加し、千葉大学は、学生交流協定等に基づく海外派遣学生数では2011年度以降、国立大学の中では継続的にトップクラスの実績を上げています。

そこで、このたび、国際教養学部を中心に成果を上げてきている本学のグローバル人材育成戦略を更に拡大展開するプランとなる「千葉大学グローバル人材育成“ENGINE”(Enhanced Network for Global Innovative Education)」を策定し、2020年度から新たに実施することにいたしました。このプランでは、“学部・大学院生の全員留学”を目指して、留学プログラムや留学支援体制を強化するとともに、外国人教員の増員等による教育改革や留学中でも科目履修が継続できる教育環境整備等を行ってまいります。本学ではこれまで様々な経費の節減や新たな自主財源の捻出等に努めてまいりましたが、このプランの実現のためにはどうしても新たな財源の確保が不可欠であることから、授業料の改定をお願いすることといたしました。

具体的な取組としては、特に、

○学生の海外留学を加速させるために必要となる取組

○ICTを活用した多方向個別学修システム（スマートラーニング）の実践により、留
学中でも科目履修を可能にするばかりでなく授業外学修等を強化するための取組

○コミュニケーション英語及び専門英語を充実させるための取組

を進めて参ります。

2020年4月以降に学士課程及び修士・博士前期・専門職学位課程（専門法務研究科を除く。）に入学される方から、現行の535,800円の授業料を年額642,960円に、2020年4月以降に博士後期課程に入学される方から、現行の520,800円の授業料を年額642,960円にそれぞれ改定させていただきます。

千葉大学は、このような安定的な財源を基にグローバル社会に通用する課題解決能力と多様な価値観を備えた人材の育成を今後更に加速させてまいります。また同時に、志ある学生が本学で学ぶ機会を失うことのないよう、学生の経済的支援の充実にも更に配慮してまいります。

2019年6月7日

国立大学法人千葉大学長 徳久 剛史